

0100

第八號

軍一

綴
總
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

一七五

威海衛占領軍參謀部 秘台第一八號

軍參謀部 一八號

別冊地理実査報告附屬支隊ノ生野
支隊直達

支隊別冊附屬地理実査報告ニ付支隊人員ノ物産
ノ調査ノ了ルニ付支隊ノ注意ニ調査長ヲ注意シ
付此報告支隊ノ保ノカ也

昭和二年九月二十七日

威海衛司令 陸軍少将 岡崎 生

参謀長印

陸軍少将 岡崎 生

支隊別冊附屬地理実査報告ニ付支隊人員ノ物産

威海衛占領軍司令部

0411

清國東省文登縣及萊城縣附近地理実査報告

頁一

文登及萊城縣附近地理実査報告

一 初村より文登縣に至ル

里程約六十五清里

道路ノ景況不良ニシテ恰モ旅順半島ノ道路ニ於ケル如ク道路ト云ハ八道
 路畑ト云ハ畑ニシテ決ニテ判然タル道路ト云ヒ難シ而シテ初村より四甲ニ
 至ル迄ハ約七清里此間ハ平垣ニシテ東西山ヲ以テ覆ヒ四甲より以南吹身
 ニ緩傾斜ヲ以テ高地トナリ標高約百五十米突ニ至ル而シテ是より以南
 大概同標高ニシテ只連綿タル小丘阜ニシテ七里水頭ニ至ル各丘阜皆緩傾
 斜ニシテ急峻ノ坂路ナシ步兵公列行進ヲ以テ行進スヘク騎兵モ亦從テ一列
 縱隊ニテ行進スルヲ得断崖アリト雖モ大ナラス其深ク最モ大ナル断崖モ
 約一米突半ヲ上ラス幅モ亦一米突ヲ上ラス而シテ步兵騎兵等ノ為メニハ

表海防局員田中

既ニ人ノ足跡アルヲ以テ行進容易ナリ独リ野砲隊ニ在テハ小修理ヲ加ヘ凡可
ラス

一 河川

河川ノ主ナルモノニシテ道路ヲ横断スルモノ大流アリ其大ナルモノハ文登ノ西方ニ
流ルモノ次ニ山馬トノ西北ニアルモノ次ニ王峪集ノ北方ニ在ルモノ其他一様ナリ而
シテ文登ノ西方ニ在ル河ハ当時其幅約百二三十米突ニシテ歩兵一列行進ニ得ル
木橋アリ其深キ處モ約四十珊知ヲ越ヘス又山馬ト及王峪集ノ北方ヲ流
ル河川ハ巾七八十米突ニシテ兩川共歩兵一列行進ニ得ル木橋アリ最モ
深キ所約廿五珊知ヲ越ヘス其他ノ川ハ幅約三四十米突ニシテ橋ナク水モ亦
極ノテ浅シ急ミテ土人ノ言ニ依テ氷解ノ時及降雨ノ時果水量増加スル時
ト量氏只其河幅ヲ増スルニシテ深クハ増減ハ其量比例上極ノテ少ナリ大槪

八凌沙_レ得_ルト云_フ 其兩岸ヲ見_ルニ果_シテ極_メテ緩傾斜ヲ以_テ畑ト連_リ其
畑ト河岸ノ限界ヲ判別ス_ルニ苦_ム如此_ニ以_テ墾人ノ言ノ確実ナルヲ証ス_ルニ足_ル
べし

一村落

此間村落 初村 七清里 四甲 三三里 王吟集 二千里 山馬ト 五里 七里水頭 十

里至文登

此道路上最_モ大_{ナル}モノハ王吟集ニシテ 初村ヲ去_ル三十清里ニシテ

東西ニ長_シク戸教約八百戸商店アリ宿屋アリ歩兵約一聯隊野砲一中隊
騎兵一小隊ヲ成_ル枝隊ヲ舎營ス_ルヲ得_{ヘシ} 河川アリ飲馬場ニ供ス_ルヲ得_{ヘシ}
七里水頭山馬ト四甲皆同_シク村落ノ大ナルモノニシテ戸教一百ヲ下_ラヤル
ヘシ一見ニシテ約歩兵一大隊ノ舎營ニ充分ナルモノトス 其道路上七八ヶ村アリ
皆戸教五五十ヲ七八十ニシテ大同小異ナリ

威海衛防務局報告

一文登ヲ 龍泉湯ニ至ル

里程約七十清里

道路ハ良好ニシテ 大概ニ列行進ニ得ヘシ又場処ニテ 四列行進ニ得ヘシ然レ
ト二十里甫ヲ下家窪ニ至ル 坂路 楊柳(楊裡)ヲ 后園ニ至ル 坂路ハ隨方
急峻ニシテ或ハ二分ノ一以上ノ 傾斜ノ所アリ 野砲ノ行進困難アリ 然レト斯ノ如キ
急傾斜ノ處ハ美ニ短巨 離ナルヲ以テ 小修理ヲ加フルハ 通過ニ得ルナリ

一 河川

河川ハ圖ニ於テ見ル如クニシテ 此内大ナルモノハ 文登ノ西方ニ流ル、河 下家窪ノ
西方ニ流ル、河ニシテ 其幅四五十米突ニシテ 步兵一列行進ニ得ル 木橋アリ
而シテ 其河川ノ 景况 其他ノ 小流ハ 已ニ云ヘル 所ノ 河川ト 同一ニシテ 深ヲ 最大
ナル中モ 三四十 珊知ヲ 越ヘス 又 皆 淺涉ニ 得ヘシ

一村落

此間村落 道路 福皇口 六里 后園 十里 楊柳 (楊) 十五里 丁家窪 十里 二十里

甫 六里 胡家庄 十里 柳林子村 四里 至文登

龍泉湯ハ市街ヲナシ戸數約一千戸許商店アリ約歩兵一聯隊ト尚ホ野砲

一甲隊騎兵一少隊工兵一少隊位ヲ宿舎スルニ足ル河川アリテ西方ヲ流ル飲

馬嘯及飲水ニ供スルヲ得ル井少トカラス隨分物資ニ富ムカ如シ其他ノ

村落ハ大同山奥ニシテ戸數四五十ヲ百戸位ニシテ少クモ約歩兵二

一大隊ヲ宿舎スルニ足ル河川アリ水量尤モ清ク井乏ニカラス飲料水飲

馬水從テ乏ニカラス

一文登ヲ一高村ニ至ル

里程四十清里

表毎箇片頁取可也

道路ハ稍々道路ノ形ヲナス而シテ歩兵ニ列行進ニ適ス而シテ又登リ北
 河西ニ至ル間ハ丘阜連ナリ此丘阜傾斜稍急稜高稍大ニシテ而モ断
 岸アリテ野砲ノ通過頗ル困難ナリ北河西及南膝圍以南以西ハ平垣
 間濶地形頗ル大ナリ

一河川

河川道路ヲ横断スルモノ三流許リ内最モ大ナルモノハ高村ノ西北ヲ流ルモ
 ノニシテ幅略百米突許リ石橋アリ歩兵ニ列行進ニ得ル水深大ナラス兩岸
 亦頗ル緩ニシテ徒涉ニ得ル容易ナリ当時水深僅カニ廿五珊知許イ増水
 ノ時モ其幅増加シテ水深ハ比例上極少ナテ僅少ノ増加ヲ見ルト云ノ其
 他ノ河ハ幅三四十米突ニシテ水浅ク又橋ノ設置ナシ恰モ威海衛南門外ヲ
 流ル河ノ如シ

一村落

此ノ間ノ村落 五里 血馬坑 五里 泊十里 五里 山陰溝 五里 水井子 四里 北膝園

六里 北河西 六里 南河西 四里 至高村

村落ニテハ大略皆戸教五十内至八十戸ニテ井ハ極ノテ少ク大概川流ヲ

以テ飲水トナス如シ然レモ井又ナキニアラス地盤高キヲ以テ甚ク少シ皆歩

兵約一大隊ヲ舎營スルニ足ル此地附近ノ村落ハ威海衛附近ト異ナリ構造

稍大ニシテ一家ノ堂教ヲキノ感アリ高村ハ戸教八百許リ商店アリ者屋

アリ稍繁栄ノ感アリ龍泉湯ヲ一山ニシテ王昭集ヲ一夫リ当時支那

兵曹長以下二十名許駐屯セリ

一高村ヲ一村落ニ至ル

里程四十清里

<p>道路ノ文登ヲ一高村ニ至ル道路ノ如ク歩身一列行進ナリ道路ハ極ノテ緩 傾斜ノ丘阜上ニアリテ断崖クナク野砲ハ通過スルヲ得地形頗ル大ニシテ 恰モ一望千里其間ハ丘阜ノ凹凸アルノミナリ村落ハ八九ヲ經テ小落ニ至ル</p>	<p>一河流</p>	<p>河流ノ道路ヲ横断スルモノニ皆橋ナレ然レモ水極メテ浅ク徒涉容易ナリ又 土人ノ言ニ概ルニ前既ニ在ル所ノ河流ト同シク水ノ増加スル時トモモ水深大 ナラスト云フ</p>	<p>一村落</p>	<p>此間ノ村落 大里 鳳台嶺 五里 下河 六里 雙石 大里 姜家屯 四里 四張村 四里</p>	<p>河東 二里 大張村 二里 藤江集 五里 至北落 崙上園 郭家 道路外</p>	<p>村落ニシテ大ナルモノヲ藤江集ト云フ此村ノ戸教略五六百戸ナリ其他ハ大同小異</p>
--	------------	--	------------	--	---	---

五六十ヲ百ニ至ル皆家屋ノ構造稍大ナルノ感アリ

一高村ヲ勞山後ニ至ル

里程四十清里

実査セシニ非ス土人ノ言ノ確実ナルモノヲ記ス

道路ハ二列行進容易ニシテ小丘阜上ニ在リ野砲通過容易ナリ河流ハ五十

米突乃至四十米突ノ流トニ流許リ村落ノ主ナルモノ麦地、米家、干家ノ三

アリ皆戸教七十戸許歩兵一大隊ノ舎營シテ尚目余リアル可シ

一小落ヲ一涯頭市ニ至ル

里程三十清里

道路良好ニシテ地畝高村附近ト同ク開濶ニシテ歩兵四列行進又二列行進シ

得シ小丘阜モ巨傾斜頗ル緩ナリ断崖ナレ

武庫前山頂に石井あり

一 河川

河川ハ僅カニ二流アリ葡萄南溝ノ北方ヲ流ル河ハ幅略三十米突步兵二列行進
ニ得ル木橋アリ河底河ツ岸ノ日景况極ナテ緩傾斜ニシテ同シク水源増加ス
ルモ後涉容易ナリ他一流ハ小ニシテ橋ナリ水極ノラ浅シ

一 村落

此間ノ村落 四里 問家庄 五里 勞山砦 二里 小知 五里 河南 十三里 葡萄南溝

六里 東口 三里 寒涯 三里 至涯頭市 三ニテ皆户数七八十乃至一百户位ニシテ

皆井水ニ乏シカラズ歩兵約一大隊ヲ宿營スルニ是ル涯頭市ハ高村ト左

シク八百戸許ノ商店宿屋等アリテ繁榮ノ感アリ家屋ノ構造咸海

衛附近ヲ大ナリ歩兵二聯隊ト尚他ノ僅少ノ兵種ヲ宿泊スルニ是ル井水アリ

河流アリ飲馬場飲料水ニ乏シカラズ

日本書紀卷之六十四

一 渡頭市より菜城に至ル

里程六十清里

渡頭市より大園李家に至ル間ハ稍々傾斜急ナレ丘阜連続ニ道路亦不
 良歩兵一列行進ニ得ヘシ大園李家より以北新堂口に至ル間ハ扇牌山ト
 鼻徳山トノ向ヲ越ヘ道路上石塊多ク傾斜ノ急峻ニシテ歩兵漸ク一列行進
 ニ得ヘク野砲ハ通過ニ得ズ然レモ駄馬ハ容易ニ通過スルヲ得ル新堂
 口より以北菜城に至ル間ハ歩兵一列行進容易傾斜又緩ナリ新堂口より
 菜城に至ル間其地形渡頭市附近ト同一ニシテ地形頗ル大ナリ

一 河流

河流ハ新堂口以南約五清里ノ處ニ流リ幅約五十米突當時水深三
 十珊知許ノ兩岸河底ノ高さ既ニ云ヘ諸水流ト同一ニシテ水増加比例

民部省片頁原寸全下

上僅少ナリト云フ歩兵一列行進ニ得ル木橋アリ
一村落

此間ノ村落 三里 東丁 三里 清山後 三里 大園李家 三里 冷水泉 三里 石山

東 三里 馬道河 七里 新堂口 三里 溝刘家 三里 霸家 三里 塩灘 九里

ニテ皆戸教五十乃至七八十戸ニテ其内大ナルモノヲ塩灘トス戸教約百
ニ三十戸アリ各村落トモ歩兵約一大隊ヲ宿泊スルニ足ルニ皆水流井水アリ飲

馬場飲料水ニ乏シカラス

一文谷ヲリ涯頭市ニ至ル

一 里程六十清里許

此間ハ實査セシ非ス土人ノ言ノ確実ナルヲ記セシノニ道路ハ村落ヲリ涯頭

市ニ至ル道路ト同シクハ丘阜アリテ地畝同一ノ如シ河流ハ極ノテ少ク大水

馬場飲料水ニ乏シカラス

同上新仕頭ハ
迫路外

0424

泊附近ニ流アリ皆幅ニ三十米突ナリト云フ又水深極メテ浅ク皆橋梁ナレト云フ

村落

村落ハ十里七里河四里 林家店 三里 火家張 十二里 泊鴨家 六里大水泊 十三里

六山七里 監家吐 四里 葡萄灣 二里至涯頭市 此内大水泊ハ涯頭市ト同一ニシテ戸

数七八百戸アリト云フ其他五六十乃至一百戸ナリト云フ井水少シト云フ

一 小落ヨリ尋山所ニ至ル

里程 五十五清里

此間ノ道路ハ良好ニシテ傾斜緩クモ二大河流アリテ當時ハ水増加シアルノミナ

ラズ 橋梁ノ設置ナキヲ以テ解氷及ヒ大雨ノ時ハ通常土人ハ通過セズ却テ小落

ヨリ涯頭市間ノ道路ヲ取ルト云フ

此町所ノ直尺ヨリ

一 各湾ノ景况

桑講湾ハ當時氷結シテ海岸ヨリ六七清里ニ達ス(吉里)土人ノ言ニ依ルハ毎年
 十月頃ヨリ二月頃マテ氷結ストゾ水深十尺以上ニ達スルニ海岸ヨリ二十清里以上ヲ出
 ルトゾ湾大ニシテヨ桑山所ノ山アリ南方ニ寧津所ノ大山アリ湾口良好ニシテ突ニ
 船艦ノ碇泊ニ適ス然レモ水極メテ浅ク船艦ノ碇泊シ得ル所ハ海岸ヨリ二十
 清里以東ニアリ桑山所ノ山海津所ノ山亦其功ナシ
 氷無キ時船ノ通スルモ威海湾ニアル極メテ少ナルヨヤンクニ過ズトゾ然レモ昔テ
 花園河口ニ上陸セシ當時ヲ想像スレハ決シテ上陸シ能ハズトゾガラス若今依リニ上
 陸点ト撰定セシカ上陸後文登ニ向テ教言戒シ栄城縣ニ向テ教言戒スル最良ナル
 陸地ニ富々村落亦大ニシテ上陸隊ノ舍營ニ令シカラス
 裡島湾トハ回上ニ見ル如リ極メテホニシテ到底上陸点トスル能ハズ

ハ徒涉シ得ルト云フ其兩岸ヲ見ルニ果シテ極ノテ緩傾斜ヲ以テ畑ト連リ其
畑ト河岸ノ限界ヲ判然スルニ苦シム如シ以テ土人ノ言ノ確實ナルヲ証スルニ是ル

一村落

此間村落

初村

七清里

四甲

二十三里

王吟集

二十里

山馬ト

五里

七里水頭

里至文登

此道路上最モ大ナルモノハ王吟集ニシテ初村ヲ去ル三十清里ニシテ

東西ニ長シ戸數約八百戸商店アリ宿屋アリ歩兵約一聯隊野砲一中隊

騎兵一小隊ヲ成ル枝隊ヲ舎營スルヲ得ヘシ河川アリ飲馬場ニ供スルヲ得

ヘシ七里水頭山馬ト四甲皆同シ村落ノ大ナルモノニテ戸數一百ヲ下ラサル

ヘシ一見シテ約歩兵一大隊ノ舎營ニ充分ナルモノトス其道路上七八ヶ村ア

リ皆戸數五六十ヲ七八十三ニテ大同小異ナリ

武庫所 兵員 軍需 倉庫

L2カ0

一文登ヲ龍泉湯ニ至ル

里程約七十清里

道路ハ良好ニシテ大概ニ列行進シ得ヘク又場処ニテ四列行進ニ得ヘシ然レ
此二十里甫ヲ丁家窪ニ至ル坂路楊柳(楊裡)ヲ右園ニ至ル坂路ハ隨分
急峻ニシテ或ハ二分ノ一以上ノ傾斜ノ所アリ野砲ノ行進困難ナリ然レ此所ノ如キ
急傾斜ノ處ハ實ニ單巨濇ナルヲ以テ小修理ヲ加フルハ通過ニ得ルナリ

一 河川

河川ハ圖ニ於テ見ル如クニシテ此内大ナルモノハ文登ノ西方ニ流ル河、丁家窪ノ
西方ニ流ル河ニシテ其幅四五十米突ニシテ歩兵一列行進シ得ル木橋アリ

右列記ノ中至各今第

裡島ヨリ花板石ニ至ル湾ハ水深クシテ嚴寒ニ至ルモ氷結セズ海岸ヲ去ルニ三里(支那里)

ニシテ既ニ水深十尺以上ニ達ス然レモ暗礁ヲクシテ水先ヲ熟知スル者ニ非レハ支那船

ノ稍々大ナルモ在テモ入ルヲ得ズトゾラ時支那船約三百噸位ノモノ三艘入湾シアリ

花板石以北ハ水深ク暗礁ヲク最モ船艦ノ碇泊ニ適ス爪波ノ強大ナル時々船艦此

處ニ碇錨シテ難ヲ避クルト云フ養魚地ハ海水ノ浸入セシ所ニテ水浅ク昔田時尙氷結

セリ湾ノ形状前述ノ如シ而シテ各湾海岸共皆上陸後直ニ台領スベキ良好ノ

陣地ニ乏シカラズ宿泊モ亦乏シカラズ

花板石附近ノ海岸ハ約十二三名ヲ乗スベキ漁船四楫許リアリ又以テ上陸兵一助トナ

スヲ得ハシ

一備考

前陳ノ各道路ヲ横断スル河川ノ内木橋石橋アルハ皆歩兵一列ヲ行進ノ連

兵ヲ行進ノ連

續行進ニ堪ユヲ得ル

橋梁ナキ水流ハ比自當時十五珊知以下ノ水深ナリ

一般ニ威海衛近傍ノ高地ノ如ク階段状ノ高地ナク亦断崖モ威海衛附近ニ比シテ少ナク且ツ小断崖ナリ

一 雜記

此旅行ハ軍服善用ニシテ大日本帝國軍人トシテ旅行セシテ以テ戦後ノ結果人民ノ意趣如何ヲ懸念セリ然ルニ至ル慶人民温和ニシテ少シモ戦役ノ感ナキカ如ク却テ敬意ヲ表ス且ツ或ル村長ノ如キハ頗ル日本軍ヲ賞メ賛シ日本軍ハ戦ハ必ス勝ツ是支那兵ノ及ニサル一日本軍ハ仁アリ義アリ之レ支那兵ノ及ニサルニナリト述言ヘル者アリ仮令御在辭トハ亦其一般ヲ知ルニ足ルハシ

文登以南上陸 涯頭ニ至ル附近ハ英國人カ日本人カヲ知ラス土人皆英國人カ日本人カヲ問フ亦以テ人民一帳ノ情况ヲ察スルニ足ル

人民ノ集合シ来ルノ至ル處實ニ百ヲ以テ數フルニ至ル迷惑ナル昼食

所トナリタル家及宿屋ニテ夜炊ニ立錫ノ地ナリ爲メニ寛ノ障子ノ紙ヲ

剝シ終ニ障子ノ骨ノミニナスニ至ル且食ノ時ノ如キハ至ル處田カ子ハ

老若ヲ向ハス其昼食取ニ至リ婦人ハ老幼ヲ向ハス皆各自ガ入口迄出テ

見物セリ村以洛ヲ通過シ終リ其村以洛ヲ望見スルハ人民村以洛ノ出口

迄集合シテ恰モ黒山ノ如シ

文登ヲ知縣 (我國知事相當ナラン) ハ三十九歳友那人中関化的ノ人物ナリ

筆談スルノ一時間許筆談尤モ明ラナリ筆談中威海衛附近設置ノ

日本軍電信ノ屢々紛失スルニ甚大ニ懸念シアルヲ云ヘリ又西司令官

兵部省官首尾ヨリヤ

長江川に舟ありて

閣下、日本安着塩谷閣下ノ安否如何及ヒ松永大佐ノ安否ヲ問フ又
 其支障的人物タルヲ知ル人民ノ評判最モ良シク人民皆敬服セリ
 栄城縣ノ知縣ハ人民ノ評判尤モ良シカラス士人ノ之ヲ駭ヲ聞ク日本
 士官ノ訪問アレハ彼レ非常ニ恐懼スト然レモ彼レモ以前軍人ニシテ南
 京ノ戦ニ功績アリテ以テ今ノ位置ヲ与メタリト之ヲ或ハ賄賂ヲ以テ
 此位置ヲ与メタリト之ヲ年五十四才ナリト之ヲ一日訪向天門番アリ
 テ日本士官ノ訪門ヲ呼フ門外我凡紀衛兵野ノ如クニシテ尚ホ大ナル
 練瓦家屋アリ及那兵四十名許整列シ美服ヲ着スルモノ十名許リ
 出迎ヒ應接所ニ安否内ス待ツテ五分許以間支那兵等窺ヨリ頭ヲ
 出シテ見物ス更ニ軍紀爪紀ナシ既ニシテ奥ニ當リテ呼聲ヲ聞ク友
 那兵等忽チ逃走シ美服ヲ着スルモノ謹テ直立セリ即チ知縣ノ

來ルナリ知縣バ礼帽ヲ戴キ威爪酒ヲタリ禮終リテ椅子ニ坐ル何ソ

四ラニ牛鼻ヲカヒトハ之レ支那ノ知縣ノ知縣タル所以カ支那ハノ集

合シ来リ見ル一人民ノ如シ知縣大聲叱呼スレハ忽チ去リ時ヲ終テ又

来ル又叱呼スレハ去ル忽チ来リ忽チ去ル軍紀風紀ノ隱モ

ナシ知縣筆談ヲ能クセズ而モ尚言語通セス十分許リニミテ録飯還ノ時

モ亦支那ハ整列以前ノ如シ門道知縣ヲ送り来ル知縣ノ家タル文

登ニ比スレハ頗ル壯嚴ナリ

午後三時頃知縣ノ兵宿舍ニ来リテ知縣ノ訪問ニ来ルヲ告グ出テ迎

フレハ行列甚ク盛ナリ先頭二人知縣ノ来ルヲ叱呼シテ人民ニ不敬ノナキ

ヲ教言ム次ニ支那兵三十名許ニ列縦隊ニナリテ各長ニ尺五寸許リ幅

三四寸許金色恰モ銀絨ノ如キモノヲ持テ其次ニ赤チ天蓋ヲ持テ次ニ

廣野村町長可命

美腹ヲ著スルモノ白馬ニ跨リ次ニ知縣白馬ニ跨リ意氣揚々トシテ
 来ル人民ノ集合スル一立錫ノ地ナシ會談スル一十分許リミシテ去ル行列
 前ノ如シ

至ル處日本銀貨一四ヲ支那銅錢八百個ヨリ八百六十個ニ換ユ

宿舎ノ不潔食器ノ不潔ハ定ニ言語ニ尽シ難シ一言スレハ支那ノ國ニ不
 潔ト云フ字アルハ定ニ奇ト云フヘシ

冬季ノ旅行ハ大概午前九時頃朝食シ直ニ出發シ一時頃迄休憩ナク
 行進シ一時頃ニ至ラテ十分許休止シ此間日本人ハ支那國饅頭一ツ
 位ヲ食シテ昼食ニ換ユ直ニ出發シテ午後五時頃迄ニ宿舎ニ付ク
 一時間不良ノ道ニテ拾清里ノ速カ良好ニテ十二三清里ヲ行進ス如何ニ
 朝早ヨリ出發セントスルモ八時ヨリ早カラス然ラサレバ朝食ヲセス朝早

ヨリ出發シテ十時頃ニ至リ朝食ス此間ニ時許リテ費ス之レ馬ノ
食事時間非常ニ大ナレハナリ

此旅行ニ於テ尤モ感シタルハ至ル處長老者ヲ尊敬スルノ美爪アルニ
在リ土人集合シテ立錫ノ地ナキ程ナルニ老人ノ末ルアレハ道ヲ開キ
テ通テシノ室内座臥シ在ルモアレハ立テ其場ヲ讓ル等毎々賞
賛スヘキ美爪ト云フハシ

高村及栄城縣ニ駐ルシアル者ノ推多帶ニ器ハ單發銃ニシテ遊
衣ハ闊懷式ニシテ表尺ハ我國單發銃ノ製表オト同ナリ巨鹿ハ
三千五百米突アリ

劍ノ長サ四十班許リナリ何國ノ製衣造ニ係ルカ又ハ何式銃ナルカヲ
明クニセサルハ遺憾ノ至リナリシ手入保存法ハ先ツ支那ニトシテハ

日本書紀

明治三十年一月三十日

充分感セリ

高村ニ在ル兵ノ軍服ニ勇兵ト記シ米城縣ニ在ル兵ノ軍服ニ親兵ト記セリ

盛
字
勇兵

山海
防東
字親兵

明治三十年一月三十日

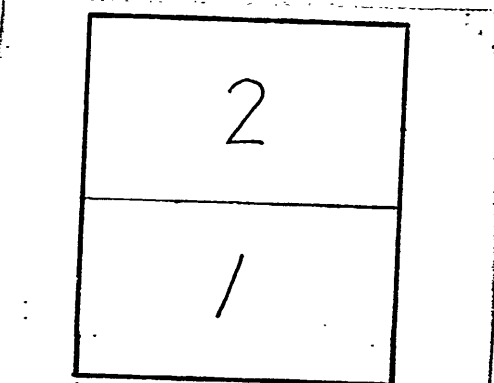

威海衛台領軍歩兵第二聯隊

陸軍歩兵少尉 高梨慶三郎

0438

地
口
切
き
糸
立
年

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>7 年 9 月 12 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 </p>	

圖附告報查實理地方地縣城榮縣

圖之一分万十二



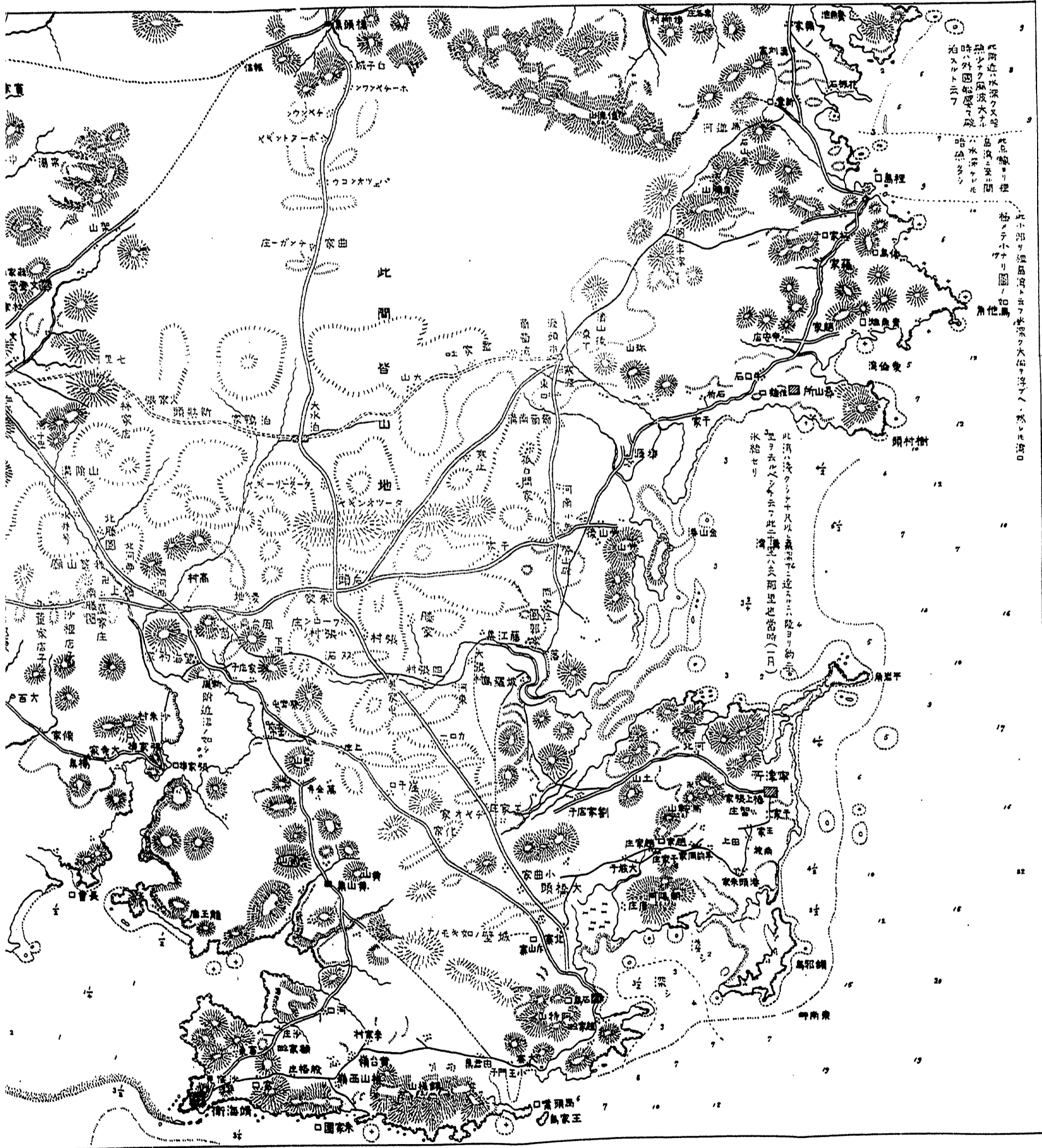
備考

黒色ハ參謀本部出版圖ニ赤色ハ歩兵少尉
高梨慶三郎同吉岡善ノ報告ニ係ル

0437

清國山東省文登縣城縣地方地理實查報告

圖之一分万十二



0438

0439

清国山東省文登縣及棠城縣附近地理実査報告

頁二

緒言

此時期ハ恰モ積雪多量ニシテ現ニ余ハ降雪後二日ニシテ發足セリ道路
上至ル所積雪三十乃五十センチ米突ナリシモ石島海濱ノ地ハ稍少
量ナリシ河ノ結氷ノ爲ノ老母猪河ヲ除ク他概シテ單獨歩行者
爲ノニハ渡河容易ナリ陰歴十月十二月ノ候ヲ以テ堅固ナリトスト云フ

余ノ此行ニ於テ通過セシ所ノ沿道ハ悉ク山地ニシテ平坦ノ地ト称スルモ僅ニ
山間ノ一地域ノミ然レモ概シテ傾斜緩ニシテ道路ノ兩側ノ地モ亦凡テ草
木ナク兵ヲ展開スルニ於テ寔モ美障ヲ能フルノ地ナシ故ニ山ノ事ニ関シ
テハ特筆セズ只主要ナル陳地トナル可キ地点ノミヲ示セリ

又此ノ地方ノ行軍ニ於テ村落内ヲ通過スルハ概シテ不利ナリ何トナレバ村
落内ニ於ケルヲ通路ハ狭少ニシテ不良殊ニ凸凹粗造ノ敷石ヲ多キヲ以テ砲

車ノ如キハ殊ニ村落ニ遭遇セバ此ヲ迂回スルノ道ヲ撰フヲ良トス村落ノ右
 邊ニ數字ヲ記スルハ其概畧ノ戸數ナリ
 (又此地方ニ於ケルハ清里約
 一里ニ相當スルモノ如シ)

實 査

一長峯寨ヨリ文登ニ至ル此間八里(七拾五清里)沿道ノ村落
 長峯寨 三百 四里

二百 三千米 二百 一千米 五十 四千米 二百 六千米 一百五十 二千米

麟伯村 七清里 曲阜 二清里 小曲阜 八清里 野靠 十三清里 草廂 四清里

百 千米 三百 三十米 百 三千米 百 二千米 百五十 三千米

竇家頭 二清里 申格庄 六清里 飽家山 六清里 以将家伯 四清里 杜家伯 五清里

文登洲

道路 此間ニ在テハ畧道路ノ形状ヲ具シ步兵ノ如キハ四列乃至三列ノ行

進困難ナラサルモ小曲阜西方ノ鞍部ハ殆ント天然ノ樵路ト同一ニシテ一列ニ非ラサレハ

通過スル能ハス然レモ晝間ハ道路ノ兩側山腹ヲ行進セハ進退自由ナリ野

砲ニ在テハ通過スルヲ得ズ坂路ノ部分モ文登城ニ達スル前一千米ヲ除キ

ノ他、^{四時陣砲隊ヲ集ル}兵種ニ妨害ヲ能ハス、只文登城東ノ坂路ハ雨時泥濘行進ヲ遲滞セシムルナラン

河川 野生ノ北邊ヲ横流スルモハ稍大ニシテ幅五十米深サ雨時ヲ除クノ外約五十センチナレトモ西岸平夷ナルヲ以テ諸兵種渡河ニ宜モ差支ナシ
草廬川モ亦ク前同様ノ形状ナリ共ニ橋梁ハ現時僅カニ一人ヲ通過セシムル足ル木板ヲ架スルモ特ニ足ラズ河底ハ皆礫質ナリ

沿道ノ要部 小曲阜西方ノ鞍部ハ實ニ此道路中文登威海衛間ノ鎖鑰部ニシテ全ク隘路ノ景況ヲ呈スルモ西方向ニ對シ適當ノ射界ヲ存セサルヲ以テ大兵ヲ以テ雌雄ヲ決スルノ地ニ非ラズ僅カニ一大隊位ヲ布列スルニ足ルノ地區ヲ存ス之ニ反シ野生南方約千米ニ在テ東西ニ横ル高地ノ草廬方向ニ對シテ廣大ナル射界ヲ有シ充分ノ砲兵火力ヲ見ハシムルニ足ルニシテ步兵

威海衛守備隊司令部

一旅團以上ノ兵員ヲ布列スル地域ヲ存ス杜家泊北方ノ高地ハ草席
 方向ニ對シ又適當ノ陣地ニシテ約歩兵一聯隊ヲ布列スルニ至ル實ニ文
 登城直接ノ防禦線ナリ文登城東北ヲ圍繞スル高地ハ之ヲ台領セバ
 全ク文登ハ其掌中ニ歸ス可シ又歩兵一聯隊以上ノ混成枝隊ヲ
 布列スルニ足ル
 (第一圖參照)

雜記 文登城ハ殆ント方形ニシテ其一邊約四百米繞ラス石壁ヲ以テシ固
 ルニセントヲ以テシ壁上銃眼ヲ穿テ東南西ノ三門ヲ有シ觀稍堅
 固ナルカ如キモ察スルニ野砲彈ノ集射ニ遇ハハ容易ニ破壊スルナラン
 是レ石壁ノ内面ハ僅カニ五米突内外ノ堆土ニ過キガレハナリ城内
 人家約二千稍富有ナルモノ、如シ然レモ縣廳ニ至テハ其瓦テノ
 形態見ルニ足ルモノナシ

現在城東門外ニ清兵六十駐屯ス葛家ヨリ派遣スルモノナリト一般民情ハ威海衛附近ニ異ナル丁ナシ只始ノハ支那人ノ風俗トシテ宿舎無断進入シ我等ノ容貌服装ヲ互ニ比評シ甚タ吾人ニ不快感ヲ能フルモ漸次語ヲ通シテ種々ノ談話ヲナセハ一見舊ノ如ク喜モ惡意ヲ狭クノ情ヲ見ズ此情況ハ余ヲ旅行中悉ク同一ナリ

二文登ヨリ龍泉湯ニ至ル此間七里(六拾八清里) 沿道村落

- | | | | | | | | |
|-----|-------|-----|-----|-------|------|----|-------|
| 文登 | 二千五百米 | 二 | 四 | 二百 | 三十米 | 五十 | 二千五百米 |
| 五村 | 三千米 | 百 | 八 | 五十 | 五 | 五十 | 二千五百米 |
| 三十里 | 五清里 | 丁家窪 | 二清里 | ヒンリーパ | 十二清里 | 賜 | 二百 |
| 龍泉湯 | 三千米 | 龍泉湯 | 三百 | | | 賜 | 二百 |
| 龍泉湯 | 三千米 | 龍泉湯 | 三百 | | | 賜 | 二百 |

道路 此間ニ於ケル道路モ亦清國ニ在テハ完全ナルモノニシテ平坦ノ慶ハ悉ク兩側ニ小溝様ノモナリ路幅モ亦歩兵四列或ハ三列ノ行進容易

長河衛片頭原町分所

ナリ只柳林子村西方ノ高地及三千里南西方ノ高地ハ傾斜稍急ニ
 シテ雨時泥濘ノ爲ノ多少ノ困難ノ感スルト道路少シク狭小ナルヲ以テ野
 砲ノ通過ニ多少ノ妨害ヲ能フルアルモ砲士ノ助力ヲ以テセハ工事ヲ施ス
 行進スルヲ得可シ又雨時ハ村落ヨリキビガラノ如キモノヲ微発セバ直
 直チニ之ヲ修理シ得故ニ此道路ハ諸兵種共ニ通過シ得ルモノトス

河川 稍大ナルモノハ柳林子村ノ東方ヲ流ル、モノトス河幅約五十米
 深サ五十「センチ」ナルモ兩岸平夷渡河容易ナリ殊ニ現時全ク結氷蓋
 セル駄馬ニ頭連續渡河スルモ毫モ危険ナシ其丁家窪ノ東端ニ老
 母猪河ノ一支流アリ河幅僅カニ二十米水深約七十「センチ」兩岸稍高
 起セルモ亦工事ヲ要セス野砲ヲ渡河セシムルニ足ル其他道路ヲ横断スル
 小流數多アルモ皆前者ニ比シ渡河ニ甚モ顧慮ヲ要セスヒンリーノ

西方高地ヲ越エテハ道路ノ南側ニ老母猪河ノ一支流平行シテ南流ス河幅約七十米道路ニ沿フ所ノ左岸ハ断崖ニシテ高サ約二米トス最速ノ諸河共ニ河床礫質ナリ

沿道ノ要部柳林子西方ノ高地ハ文登ニ對シ稍遠巨嶺ナルヲ以テ所要ノ地域ヲ存スルモ野砲ト至ルニ充分ノ効力ヲ見ハス能ハザルベシ然レモ同高地ヨリ河邊ニ至ルノ間森林連絡セルヲ以テ之ニ陰蔽セラレテ文登城北方ノ高地ニ進出スルハ容易ナリトス柳林子ヨリヒンリープニ至ルノ間ハ小標高ノ山脉相連絡セリ其兩支脈間或ハ小高地ノ道路ヲ横断スル在リテ多數ノ兵ヲ展開シ得ルノ地域ナシヒンリープ西方ヨリ起リ北方ニ走ル高地ハ傾斜緩ニシテ西面一帯平坦闊腸暉ニ至ル迄約四千米平方實ニ龍泉湯方面ヨリスル敵ニ對シ主要ナル関戦地ナリ而シテ其陣地々々

域ハ約混成一旅團ヲ展開セシムル足ル又之ヲ攻撃セシト欲セハ前面ニ率

制ヲ行ヒ敵ノ左翼即チ其退路ニ攻マルヲ利アリト考フ(第二番参照)

豪家ヨリ東南ニ向テ一岐路アリ葛家ニ通スル此里程四十清里ナリト云フ

雜記 此沿道ニ大ナル村落ナキモ道路ノ兩側約八百米内外ノ延ニ於

テ三四百戸ヲ有スル村落數多アリ

三文登ヨリ^柴始村ニ至ル此間五里(四拾清里沿道ノ村落)

文登	七清里	七里場	二清里	小宅庫	六清里	ノイタ	ホウ	七清里
百	二千米	五十	五百米	五十	四十米	百	四千米	四百
千ヤイト	四清里	北馬	一清里	南馬	八清里	山屯	八清里	始村

道路 文登ヨリ七里場ニ至ルノ間道路幅約四米ニシテ平坦ナルモ七里湯

以南ハ全リ野砲ヲ通ス可カラス 千ヤイト村ニ至レハ道路岐レテ二トナル

西南ニ走ルモノハ島裡集ニ至リ南走スルモノハ^柴始村ニ通ズ此岐分点ノ

南方約五百米ニ傾斜急峻ナル高地アリ二道共ニ此鞍部ヲ通過ス
 故ニ此鞍部ニ依テ約一大隊ノ歩兵及小教ノ山砲兵ヲ有セハ島裡集及ヒ
 始村ヨリスル敵ヲ拒止スルニ足ル但シ島裡集ニ通スル道路其鞍部ヲ越
 スレハ直チニ河谷ニ沿フテ走ルヲ以テ全ク狭小ノ地域ナルカ故ニ射界モ亦
 狭小ナリ

是ヨリ山屯ニ至ルノ間皆緩傾斜ノ山地ナリ山屯ノ北方ニ屹立スルヲ回
 笠山トス山頂李氏ノ廟アリ著シキ目標ナリ山屯ヨリ始村ニ至ルノ間
 道路全ク羊腸タル山腹ノ樵路ニシテ歩行甚ク困難然レモ此地方
 一般ニ岩石質ナルヲ以テ雨時ト至モ歩行ヲシテ殊ニ困難ナラシムル
 事ナカラン路幅約ニ列行進ヲ以テスルニ足ル

河川 七里湯ノ東方一河アリ柳林子樹ヨリ流レ来ルモノニシテ渡河亦

兵隊行進ノ順序

容易ナリ其他注意スヘキ河川ナシ七里湯ニハ温泉アリ

雑記 始村ニ全ク回竈山南麓ニ在リテ此地ヨリ南方ハ平坦開濶

遠ク海ニ至リ此間一物ノ眼鬼ヲ獲ルモノナシ (始村ヨリ清兵 千騎セテ)

四始村ヨリ石鳥口ニ至ル此里程十五里(百三十二清里)沿道ノ村落

東始村 四清里 小澤頭 二清里 大澤頭 六清里 湯村店子 八清里

山後郭家 四清里 董家店子 四清里 沙糴店子 四清里 萬家庄 二清里

山領上六清里 高村 五清里 薄落右 四清里 望海初家 三清里

新家店子 八清里 蔡官屯 十四清里 上庄 八清里 山崖子口 十清里

化家 十二清里 付山寨 (土人赤山ヲ用エルヲ以テ以下之ヲ習フ) 赤山 七千米 石鳥口

道路 始村ヨリ湯村店子ニ至ルノ間ハ全ク平坦ニシテ道路モ歩

兵四列ノ行進容易ナルノミナラス 兩側約二三千米間畑地ニシテ何レノ

地ヲモ歩行シ得可シ湯村店ヨリ石島ニ至ルノ間ハ全ク山路ニシテ多
 少ノ工事ヲ施スモ野砲ノ通ヌ可クナルノ地尠ナカラス然レモ歩兵二列
 乃至三列ヲ以テ行進スルヲ得駄馬ニ至ラモ其通常ノ歩度ヲ變ヌル
 丁ナク行進スルヲ得可シ雨後及ヒ現今晴天ナル日午後ハ歩行甚ク
 困難ヲ感ヌ可シ^米姥村ヨリ石島ニ至ルノ道路ハ高村ニ出スシテ直ニ
 望海初家ヨリ新店ヲ經テ達スルモノアルモ土人ノ言ニ依レハ現時結
 氷ノ堅固ナラズシテ橋梁ナリ又小舟等ヲ以テ比高村ニ依テ往來
 スルナリト

河川湯村店子ノ東方(幅約三十米深サ四十センチ)ノ河アリ又高村ノ
 西側ヲ通ツテ望海初家ニ至ル高村川(幅約五米深サ五七センチ)アリト
 至氏共ニ兩岸平夷渡河容易ナリ殊ニ高村川ノ如キハ石ヲ以テ橋

武庫新片頭尾司令部

梁ヲ架セリ粗造ナリト至_レ亦以テ駄馬ヲ通過セシムルニ足ル其他注意ス可キモノナシ

沿道ノ要部 湯子村店子ヨリ高村ニ至ルノ間ハ緩傾斜ノ高地連續道路ヲ横断シ其兩側モ千乃至二千米ノ間歩山砲兵ヲ展開使用シ得

高山ハ文登石鳥間ノ最大村落ニシテ戸数約二千ヲ有ス清歩兵二千駐屯ス全ク四面繞ラ_レ山ヲ以テスルモ東西南南ノ三面ハ山林麓ニ達スル二千乃至四千米ノ間全ク平坦闊濶加_レルニ村ノ北ヨリ西ヲ廻_リテ高村川ノ流ル_レアリ土地濕潤ナリト至_レ諸種ノ物資等ニ至_テハ充分蓄藏シアルモノ、如シ此村ニ落_リ石鳥ニ至_ルノ道路上ニ千米ニアル高地ハ長ク西ヨリ東ニ連_リ傾斜ノ緩高村ニ對スル適當障地其地域約混成一旅團ヲ展開スルニ足ル

望海初家北方ニ在ル高地ハ遠ク東北方ヨリ延々此地ニ至リ急ニ望海ノ
 海岸ニ至テ盡盡クルモノニシテ實ニ高村石島間ノ鎖鑰地タリ即チ東北方ハ
 連山麓岨トシテ道路ノ西南方ハ一面海ヲ擁シ南東一面約二千米間平
 坦開濶ノ射界ヲ有ス而シテ此高地ハ道路ニ接スル部分稍傾斜緩ナルヲ以テ
 約歩兵大隊加アルニ山砲ヲ以テセハ能ク我ニ優ルノ敵ニ抗スルヲ得ヘシ
 此地ニ灣入スル海水甚ク浅ク余ノ觀察ニヨルモ亦土人ノ言ニ依ルモ船舶ノ便
 ナリ殆ント沼澤ノ形状ヲ呈セリ而シテ土人ノ言ニ依レハ少シク大ニジャンクハ望
 海初家海岸ヨリ水里五六十清里ノ所ニアラサレハ來ル能ハスト
 望海初家ヨリ崖子口ニ至ル間全ク山路ニシテ緩傾斜ノ支脈ト横断セラ
 レ或ハ平行シ或ハ上リ或ハ下リ兩側ノ地モ亦起伏アルノミニシテ展望自由
 又多少ノ兵ヲ展開スルニ甚モ妨害ヲ興フルモノナキ畑地トス崖子口ノ南方

約千米ニ在テ東西ニ横ル山脉ハ此道路中最高ニシテ道路ノ傾斜甚
 シキニ至テハ十分一カフルニ岩石路上ニ露出シ駄馬ノ行進ノ如キハ多少ノ
 遲滞ヲ興ララナラン此鞍部ハ道路ノ兩側約六七百米ノ間傾斜稍緩ナ
 ルヲ以テ歩兵二大隊及山砲ヲ布列スルヲ得又以テ石島ヨリスル敵ニ對スル
 主要ノ陣地タリ此鞍部以南赤山ニ達スルノ間三支脈約二千米ヲ隔テ道
 路ヲ横断ス共ニ皆傾斜緩ニシテ約歩兵一聯隊其他砲兵ヲ布列スルニ
 足ルノ地域ヲ有スルヲ以テ石島ヨリ上陸シテ文登ニ進入スル敵ヲ對シテハ
 主要ノ防禦線タリ殊ニ最モ南方赤山ノ北邊ニ横ハルモノニ至テハ全ク石
 島口灣ヲ瞰下シ其地域モ大ニシテ混成一旅團以上ヲ展開スルニ足ル
 赤山以南全ク平坦ニシテ海辺ニ出テ直ニ石島ニ達ス
 石島ノ灣ハ畧圖ニ示ス如ク水稍深クシテ我五百石乃至千石位ヲ積載

シ得ル船舶自由ニ海岸ニ直繫スルヲ得ルハ余ノ目撃スル処ニシテ通常ノ
 汽船ト雖民畧圖水深ノ部ニ碇泊シ得ルモノト考フ在留英國人(何廉寧ト稱ス)
 ノ言ニ依レハ四五ノ候物貨復漢ノ時ニ灣口ニ上海ヨリ貨物ヲ搭載シ來
 ル汽船アリト云フ小シヤンクノ如キハ輿論岸邊ニ來ル丁容易ナルヲ以テ特ニ
 棧橋ノ如キモノヲ設ケザルモ不完全ナル踏板ヲ以テセハ人馬ノ上陸容易ナリ
 トス又風ノナキ時ニ在テハ石島口半島ノ南岸ヨリスルモ海岸ハ同様ノ景
 況ナルヲ以テ先ツ此半島ニ上陸シ石島ヲ畧取シ一部ノ兵ヲ赤山南方ニ
 進ノ之ク援以護ニ依テ石島灣ヨリ全部ノ上陸ヲ為スハ容易ナリトス但シ
 石島街ノ西側ヨリ北方ニ走ル山地ハ全ク岩石ヨリナルヲ以テ僅カニ單身之徒
 登シ得ルノミ灣内ノ水深ハ之ヲ審ラカニ察スルモ余ク觀察ト土人ノ言ニ依レハ
 三十米平方位ハ充分ニ汽船ヲ碇繫セシムルノ幅員アリトス(才三國參照)

雜記 始村宋ヨリ石島ニ至ル間未ク日本人ヲ見シ丁ナシト云フ土人ノミナリ故

ニ物珍敷旅舎ニ來ツテ余等ノ容貌ヲ見或ハ衣服ノ善惡ヲ評スルニ

ニシテ二十七八年戰役ノ事ハ話頭夕モ出サス又ク威海衛ニ日本軍ノ駐屯

スルハ多少屯事ヲ解スルモノト虽モ何ノ故ナルヤヲ知ラサルモノ、如シ高村ハ

穀類其他雜貨ニ富メルモノ、如シ石島ハ其船舶ノ出入頻敏系ニシテ

上海地方ヨリノ輸入雜貨及穀類ノ輸出アルモ如シ殊ニ此地ニハ英國

宣教師一人之ニ附属スル同國人三四人アリ皆充分ニ支那語ヲ解シ當

地土人モ亦之ヲ信スルモノ多シ而シテ此宣教師ハ清國ニ入りテヨリセニ

十四年ヲ終此附近ニ於ケル地理人情等ニ精通スル實ニ余カ此行中

一驚ヲ吃シタル所ナリ橋頭ヲ出ツル道路ノ如キモ余ハ此宣教師ニ就キ

之ヲ尋子シニ曰クニアリ一ハ小ソ洛ヨリ崖頭市ヲ終テスルモノ、二ハ滕家張村

上海雜記

ノ東八清里ニアリヲ終テスルモノ三六張村ヲ終テスルモノニシテ共ニ皆道路ノ景況ハ同一ナリト余ハ張村ヲ至テ橋頭ニ出テタリ

余カ石島滯留ハ二十日正午ヨリ翌日午前九時頃ナリシモ當地駐屯ノ清兵始終來テ來意ヲ問ヒ又余ニ尾行スル等多少惡感情ヲ有スルモノ如シ從ツテ地形上等ニ就キテ之ヲ土人ニ聞クニ避ケタリガ此英人ヲ訪フテ多少利スル所アリタリ是レ此所ニ駐屯スル清兵ノ長ハ僅カニ其姓名ヲ解スルニ足ルノミニシテ以護照等ノ何タルヲ知ラス只日本軍人ト聞テ多少疑心ヲ懷ケルニ依ルナリ土人ハ毫モ此ノ如キ意ナキハ前述ノ如シ

五石島ヨリ張村ヲ終テ橋頭集ニ至ル此里程十五里(百二十清里)

沿道ノ村落	石島口	十六清里	大橋頭	四清里	小曲家	六清里
王家庄	千ヤオ家	十清里	カウー	八清里	千ヤイワンヤヤ	四清里
二百	千五百	二百	五百	四百	五十	二十
米	米	米	米	米	米	米

此等所ハ其里ノ合

張村	二百	二千米	張村	百	二千米	ワローン庄	百	四千米	二	百	二千米
右頭	百	三千米	小張村	四清里	四清里	八清里	百	四千米	シ	百	四千米
六清里	六清里	ターツオンギヤ	ターツオンギヤ	四清里	ターターリーギヤ	八清里	百	四千米	シ	百	四千米
一	千	二千米	五	十	三千米	曲家	百	三千米	四	百	二千米
ク	シー	四清里	チ	ン	ガ	六清里	曲家	六清里	百	三千米	四清里
ホ	ース	ター	ン	ギ	ヤ	三	清	里	三	清	里
自	子	城	四	清	里	橋	頭	集	四	百	

道路此間ニ於ケル道路ハ石島ヨリ大橋頭ニ至ル迄テ野砲ノ通過ヲ

ナシ得ルモ其他ハ全ク山路ニテ道路ノ形状ヲ具ハス只畑地中ノ捷徑ニ

過キス然レモ道路ノ両側悉ク同様ノ畑地ナルヲ以テ晝間ハ歩兵及ヒ

馱馬ノ行進ニ殆ント障害ヲ與ハス時々地隙アルヲ以テ夜間ノ行

進ハ速度ヲ減セラル、ナラン然レモ三時間ニ約二里ト預想セハ可ナリ就

中右頭ヨリターツオンギヤニ至ル三千米ノ間ハ即チ山東半島ニ於テ

山高ク道路ノ傾斜急ニシテ是ニテ所ニ在テハ十分ニ達スルモアリ

ル南北両水経線ニ當リ其他ハ傾斜ノ如キハ行進上意トスルニ足ラサル
モ雨後及ヒ晴天現今ノ午後ニ在テハ泥濘ヲ極ム

河川道路ヲ横断スルモノニシテ注意ヲ要ス可キモノナシ橋頭集ノ東方
ヲ流ルモノ稍大ナリト雖モ又水浅戦術上顧慮ヲ要スルニ足ラス

沿道ノ要部 大橋頭南方ノ高地ハ即チ赤山北方ノ高地ニ連絡スル
モノニシテ敢テ茲ニ特載セズ而シテ此以北タイシホーニ至ル八拾清里ノ間

全ク平坦ノ地ヲ見ス緩傾斜ノ小山脈縦横錯雜或ハ上リ或ハ下リ或ハ
之ニ平行シ一部ノ爲メ石島ニ對シ或ハ橋頭集ニ對シ歩兵大隊

或ハ聯隊ヲ布列シ得ル陣地尠カラズ即チ道路ハ不良ナルモ其
側方ハ全ク樹木ヲ有セサル畑地ナルヲ以テ小部分ノ運動ハ自由ナ

リ只後頭北方ノ鞍部ハ石島ヨリスル敵ニ對シ大村ヲ落タル利ヲ

兵隊所ノ位置可ナク

ノ爲メニ主要ノ防禦線ニシテ歩兵一大隊ニ多少ノ山砲兵ヲ有セハ
 數倍ノ敵ニ抗スルニ足ルターシーホーハ此道路中最大ノ村落ニシテ戸數
 千ヲ下ラス此圍田ハ約三千米四方稍平坦ニシテ凡テ高地ナリ故ニ穀
 類ノ如キモ貯藏充分ニシテ約混成一旅團ハ之ニ宿舎セシムルヲ得可
 シ是ヨリ橋頭集ニ至ルノ間ハ恰モ石島ヨリ茲ニ至ルノ間ト同景況ニシテ更
 ニ記載スヘキナシ此以北ノ村落ノ附近ニハ柳林ノ多數ナルヲ異ナリトス
 雜記 此沿道モ未ク嘗テ日本人ヲ見サルト云フモノノミニシテ群集來
 ツテ余ノ行ヲ見ルモ爾來終過セシ所ノ土民ニ比スレハ全ク朴直ニシテ
 文字ヲ解スルモノヲ問ハ隣村ニ一人アリト答フル有様ニテ村名ノ如キ
 モ只其呼唱ノ終ヲ記シタル所以ナリ

六橋頭集ヨリ長峯寨ニ至ル五里半(四拾五清里)

沿道ノ村落

橋頭集 三百

四十米

孟家庄 百五十

二十四米

張家口子 百

三千米

温泉湯 二百

三十米

虎山 百

二十四米

馮家庄 百五十

二十四米

嵩泊村 二百

三千五百米

長峯寨 三百

道路ハ橋頭ヨリ虎山ニ至ルノ間亦野砲射通セズ歩兵二列乃至三列

ヲ以テ行進スルヲ得ヘシ虎山以北ハ諸兵種ノ通過自在ナリ

河川ハ温泉湯ノ北邊ヲ流ケモノ指大ナリト宝尾水浅ク兩岸又平

夷ニシテ戦術上顧慮ヲ要スルニ足ラズ

沿道ノ要部 張家口子及ヒ虎山ハ二七七八年役ニ於テ已ニ我軍ノ終

歴セシ所今茲ニ之ヲ教員セズ

終リ

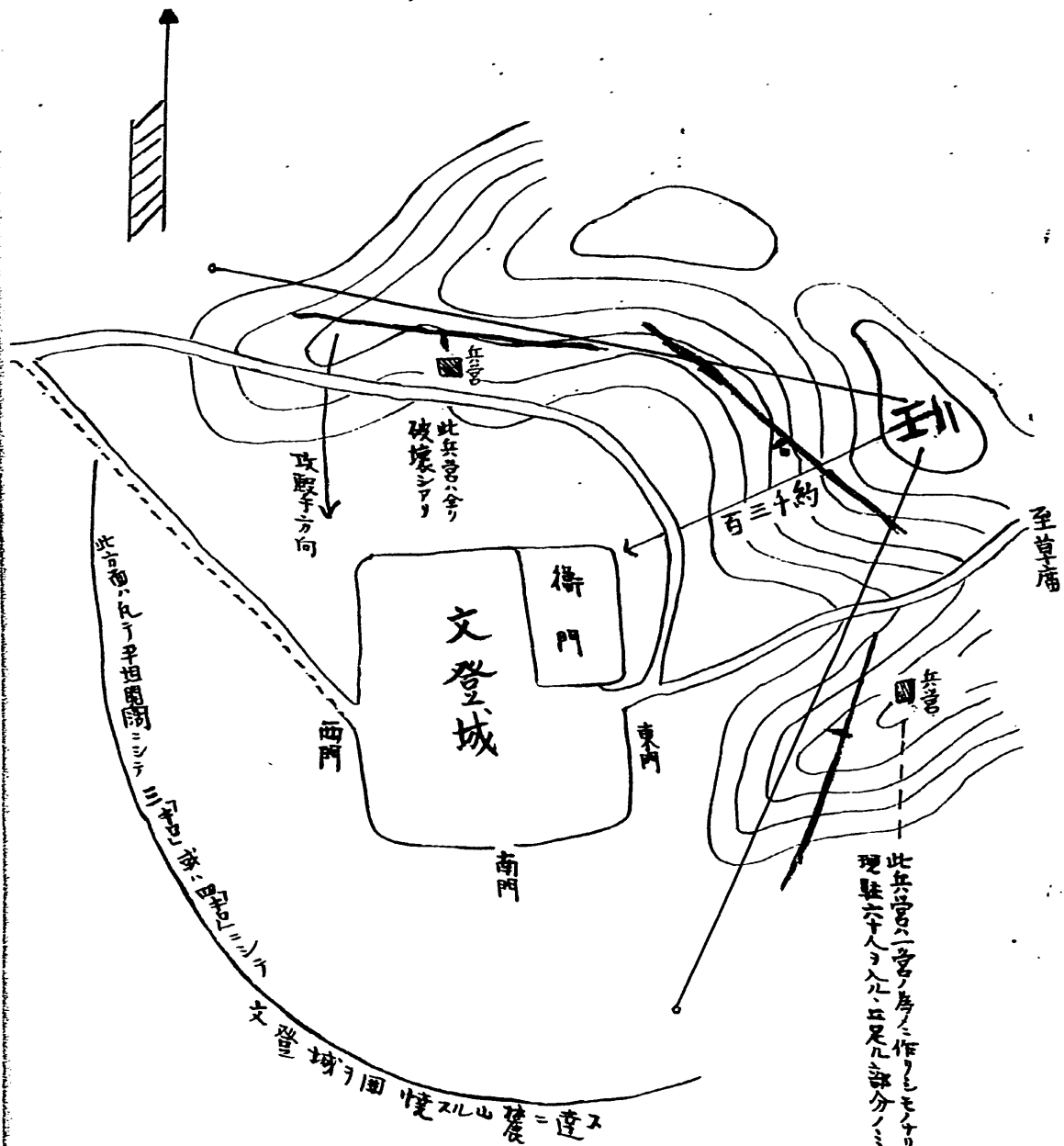
明治三十年二月二十五日

陸軍歩兵少尉 吉岡壽

武庫所片頭目部

0461

第一圖



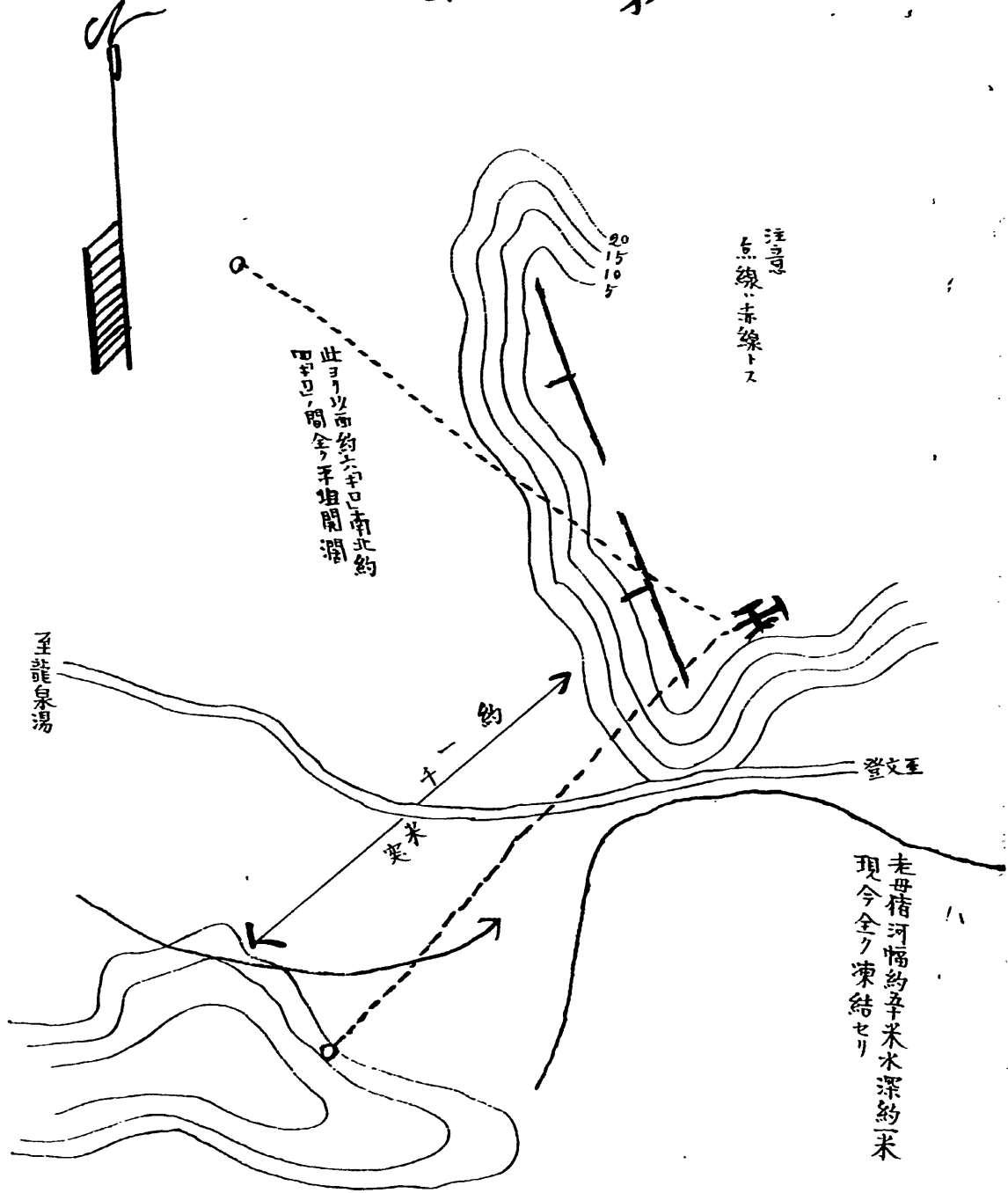
約 $\frac{1}{10000}$

0462

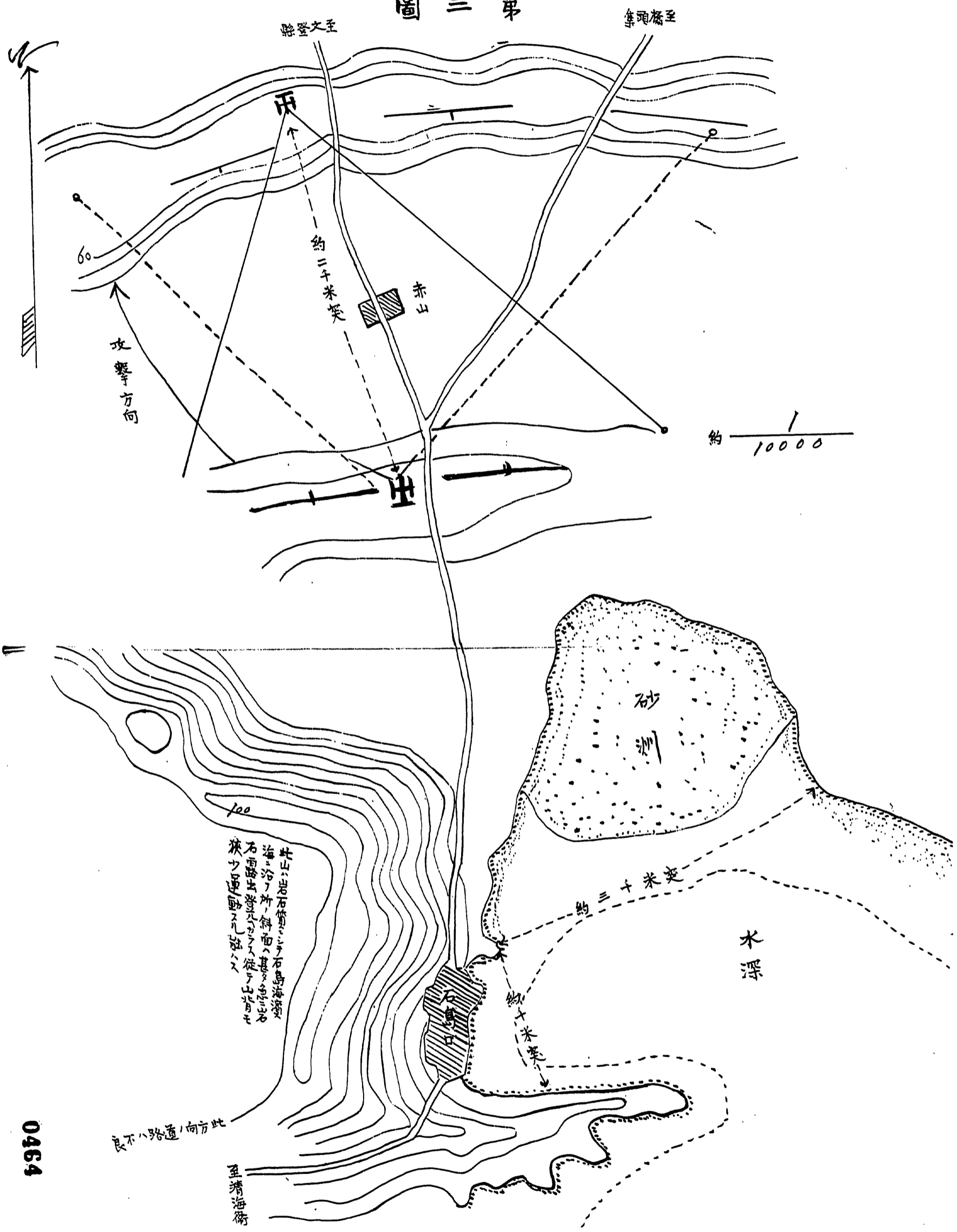
至柳林子村

圖二第

0463



圖三第



0464